

[取組みの方向性4] 世界とつながる新たな熊本の創造 ～世界に挑み、世界を拓く～

[施策13] 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

(1)現状と課題		(2)概要		(3)施策体系		(4)県民アンケート結果	
<p>人口減少が進み、国内・県内経済の規模縮小が懸念される中、成長著しいアジアをはじめとする世界に目を向けた動きが進んでいます。これまで、国際航空路線の拡充や「くまモン営業部長」を活用したプロモーション活動等により、アジアとのつながりの強化や県産品輸出の拡大に取り組んできました。熊本地震に対する応援の機運の高まりや、新たなMOUの締結、国際スポーツ大会の開催等を契機に、これらの取組みを更に強力に推進し、「KUMAMOTOブランド」として世界に展開する必要があります。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019が、本県も含め国内12都市で開催されます。また、ハンドボール世界選手権大会は、1997年の男子大会に続き、2019年に女子大会が本県で開催されます。これらの大会を着実に成功させるとともに、大会開催のレガシーを後世に残していくことが必要です。</p> <p>グローバル化が加速する中、英語等の語学力やコミュニケーション能力、異文化理解の精神等を有する人材が求められています。</p>		<p>HACCPの取組みなどによる農林水産物や加工品などの県産品の競争力向上、販路開拓・拡大などに取り組み、「KUMAMOTOブランド」を世界に展開します。</p>		<p>「KUMAMOTOブランド」の世界展開 【担当部局：知事公室・健康福祉部・ 商工観光労働部・農林水産部・ 国際スポーツ大会推進部・教育庁】</p>		<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>	
★重要業績評価指標(KPI)		策定時	H28	H29	H30	目標値	
施策13 ①	i 海外(国別)に輸出及び進出を行った県内企業数	495 (H26)	573 <76.4%>	654 <87.2%>		750 〔社〕	
	分析	TPP参加を契機とした海外市場への関心の高まりに加え、海外でのくまモン人気や熊本地震からの復興の機運を捉えた海外プロモーション等により、海外展開する県内企業が増加した。					
ii	HACCP導入施設数	27 (H27)	40 <40.0%>	63 <63.0%>		100 〔施設〕	
	分析	研修会の開催回数を増加させるとともに、食品衛生協会等と連携して対象施設立入時の啓発等を強化したことにより、導入施設が増加した。					
i	海外高校への留学者数	12 (H27)	13 <65.0%>	12 <60.0%>		20 〔人/年〕	
	分析	経済的理由や語学力不足に加え、海外の政情不安等の影響により、留学者数は減少した。					
ii	海外大学への進学者数	18 (H27)	12 <40.0%>	7 <23.3%>		30 〔人/年〕	
	分析	海外での大学学費の値上げや海外の政情不安等の影響により、進学者は減少した。					
iii	官民連携による海外研修・留学者数	47 (H27)	43 <86.0%>	42 <84.0%>		50 〔人/年〕	
	分析	熊本地震等の影響により申請者数が伸び悩んだ事業があり、海外研修・留学者数はほぼ横ばいとなった。					
iv	留学生(高等教育機関)の受入数	735 (H27)	685 <68.5%>	691 <69.1%>		1,000 〔人/年〕	
	分析	留学生数の減少した大学が勧誘を強化したことや、大学コンソーシアム熊本による日本語学校に通う学生を対象とした留学生誘致活動の結果、H28年度より微増となった。					
v	2020年東京オリンピック強化指定選手数	45 (H27)	47 達成	29 達成		20人以上/年(H31) 20人以上/年(H31) 〔人/年〕	
	分析	競技団体等との連携により、指定選手の全てが国際大会の経験者であるなど、指定選手数が目標どおり推移し、より世界で活躍が期待できる選手数が増加した。					
vi	2020年東京パラリンピック強化指定選手数	20 (H27)	16 達成	13 達成		8人以上/年(H31) 16人程度/年(~H28) 〔人/年〕	
	分析	競技団体等との連携により指定選手数が目標どおりとなるとともに、専任コーチの選定等により、世界で活躍が期待できる選手の育成が進んだ。					
		H29	事業数	決算額	H30	事業数	予算額
施策13 ②		H29	24	1,593,622千円	H30	24	2,435,839千円
		H29	21	311,401千円	H30	21	376,144千円
		<p>世界とつながる国際人材の育成・活躍支援 【担当部局：総務部・企画振興部・健康福祉部・ 環境生活部・商工観光労働部・ 農林水産部・教育庁】</p>					
		【満足度】		【今後の方向性】			

[施策13] 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

No. (5)平成29年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
<p>施策13 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>くまモンを活用し、県産品の販路拡大や観光PRのため、フランス「ジャパン・エキスポ」をはじめ、中国、香港、台湾、ASEAN等においてプロモーションやECサイトを活用した海外販売を実施。また、くまモンのイラスト利用の海外解禁とアニメーション制作を決定</li> <li>県産品の海外競争力強化を図るため、HACCP等の食品の安全安心な衛生・品質管理手法を普及促進するとともに、海外バイヤーや商社と連携し、商品力強化のための商品ブラッシュアップを実施</li> <li>ラグビーワールドカップ2019が開催される九州3都市による「九州開催地宣言」を決定し、合同プロモーション等、大会成功に向けた連携を強化。女子ハンドボール世界選手権熊本開催PRのための都市装飾やHP開設等の広報活動を実施</li> <li>女子ハンドボール大会やラグビーワールドカップに関連した国際大会やプレ大会、また、各種イベント等のPR活動を実施し、大会終了後も、レガシーとしてハンドボールやラグビーをはじめとしたスポーツに親しむ県民が増加するよう、県民の関心を高め、機運を醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>くまモンイラストの海外利用解禁の効果を高めるとともに、海外プロモーションや新たなコンテンツの制作等により活用効果が高まるようくまモンの認知度やブランド価値の向上が必要</li> <li>海外輸出の増加に向けて県内事業者の総合力を強化するため、事業者のHACCP導入を推進するとともに、多くの商品が集まる海外市場において、消費者に選ばれるような商品力強化が必要</li> <li>国際スポーツ大会への関心を更に高めるため、両競技を県内に普及させ、県全体を盛り上げる取組みが必要</li> <li>大会終了後も、レガシーとしてハンドボールやラグビーをはじめとしたスポーツに親しむ県民が増加するよう、広く県内の各地域・分野に大会開催等の効果を波及させるための更なる取組みが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>くまモンイラストの海外解禁の効果を最大限に活かしながら、海外において県産品の継続的な取引が見込める現地企業との関係構築や、くまモンを活用するパートナーの確保など、「KUMAMOTOブランド」の世界展開を推進</li> <li>HACCP導入増に向け、事業者や関係団体等と連携を深めるとともに、技術的支援等を強化。さらに、海外バイヤーや商社等と連携し、商品力・営業力を強化</li> <li>プレ大会開催等を通じて大会準備を着実に進め、両競技の普及や広報活動等により、大会への関心を高めることなどにより大会を成功に導き、熊本の復興の姿や感謝の心を世界に発信</li> <li>国際大会、プレ大会等の実施を機に、レガシーとして次世代に残せるよう、競技普及や施設整備等により、県民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、受入環境を整備し、インバウンド観光を推進。併せて、県民と各国チームとの交流機会を創出するなど、国際交流を促進</li> </ul>
<p>施策13 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修等の実施により、英語教員の英検準1級以上相当の資格取得率は、中学校では31.7%(H28年度31.0%)、県立高校では86.7%(H28年度84.5%)に向上</li> <li>海外チャレンジ塾等の実施により、海外留学・進学への意識の醸成を図った。また、世界チャレンジ支援基金を活用し、高校生、大学生、若手芸術家等42名の海外チャレンジを支援</li> <li>留学生の相談に応じるワンストップ窓口等を活用した留学生ネットワークなど大学コンソーシアム熊本が行う留学生誘致の取組みを支援することにより、H29年度は留学生数が増加。また、外国人農業実習生のスキルアップのために農業アカデミーによる研修を69名が受講</li> <li>留学生の県内定着を図るため、留学生向け、企業向けのセミナーを実施するとともに、九州内の留学生と企業をつなぐマッチングサイトを周知し、サイトへの登録を推進</li> <li>2020年の東京オリンピック・パラリンピック等に出場可能性のある選手を強化指定選手として指定し、強化練習等を実施。強化指定選手の中から、フェンシング世界ジュニア選手権の優勝選手を輩出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“英語教育日本一”を達成するため、英語教員の更なるスキルアップを図るとともに、生徒の英語力向上に向けた取組みが必要</li> <li>海外留学・進学を総合的に支援する体制の更なる充実や学校現場における海外進学ノウハウの向上を図るとともに、海外にチャレンジする若者への支援資金の確保が必要</li> <li>留学生に選ばれる環境となるよう取組みを更に強化するとともに、様々な地域の外国人材が就農していることから、海外人材育成講座の対象者の拡充とニーズに沿った運営が必要</li> <li>サイトの登録者が少なく、マッチングが進まないため、サイトの利便性を向上させるとともに、登録者の増加による提供可能な求人・求職情報の拡充が必要</li> <li>2020年の東京オリンピック・パラリンピック等に、より多くの本県出身の出場者を輩出するため、計画的な選手の育成・強化が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修等や英語教員との意見交換等を通じて英語教員の英語力・指導力を向上。さらに、中学校では英語検定等の受験への支援を、県立高校では県独自のスピーキングテストの活用促進等を通して、生徒の英語力を育成</li> <li>海外チャレンジ塾等において、海外進学にも必須となるグローバルマインド醸成に向け講座内容の充実化を図るとともに、世界チャレンジ支援基金への寄附の増加を図ることでより多くの若者の海外チャレンジを支援</li> <li>外国人留学生誘致のために、外国人が在籍する日本語学校やイベントでのPR等を実施。また、外国人農業実習生等への講座の対象者の拡充や内容を充実するとともに、介護現場における留学生や技能実習生へ支援方法を検討</li> <li>留学生向け・企業向けセミナーの開催や、フライト企業等の周知、留学生インターンシップ等を通じて求人・求職情報を発信するとともに、留学生及び企業のサイトの活用によるマッチング増加を図り、留学生の就職を促進</li> <li>2020年の東京オリンピック・パラリンピック等での活躍が期待できる競技者を学生に限らず社会人を含めて掘り起こし、育成・強化を実施</li> </ul>